

平成 26 年 度

## 小学校教員資格認定試験

### 教職に関する科目 (Ⅱ)

## 体 育

#### 注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 26 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。  
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるの  
で注意してください。
5. 解答は、すべて解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正する時は、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。  
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出て  
ください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を持ち帰ってもかまいません。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊖

問 1 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、体育科の究極的な目標は「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」とされている。この「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」の解説の部分に示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 運動やスポーツを豊かに実践するための資質や能力
- イ 自ら考えたり工夫したりする力
- ウ 健康で安全な生活を営む実践力
- エ たくましい心身を育てること

問 2 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 5 学年及び第 6 学年の「内容の取扱い」として示されているものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 内容の「E ボール運動」の(1)については、アはバスケットボール及びサッカーを、イは野球を、ウはバレーボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるものとする。
- イ 内容の「D 水泳」の(1)については、飛び込みからのスタートを指導するものとする。
- ウ 内容の「A 体づくり運動」の(1)のアと「G 保健」の(1)のウについては、相互の関連を図って指導するものとする。
- エ 地域や学校の実態に応じて歌や運動を伴う伝承遊び及び自然の中での運動遊びを加えて指導することができる。

問 3 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 1 学年及び第 2 学年の「A 体づくり運動」領域の「イ 多様な動きをつくる運動遊び」の「(ア) 体のバランスをとる運動遊び」の内容として例示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 回るなどの動きで構成される運動遊び
- イ 座る、立つなどの動きで構成される運動遊び
- ウ 寝ころぶ、起きるなどの動きで構成される運動遊び
- エ 用具を運ぶなどの動きで構成される運動遊び

問 4 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 3 学年及び第 4 学年の「B 器械運動」領域の「(2) 態度」の内容として示されているものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア きまりを守り、友達と励まし合って運動をすること。
- イ 器械や器具の準備や片付けは、危険を伴うので行わないこと。
- ウ 危険な技は行わず、安全に自分ができる技を行うこと。
- エ 技ができる、できないという結果を受け入れること。

問 5 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 3 学年及び第 4 学年の「C 走・跳の運動」領域の内容として示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア かけっこ・リレー
- イ 高跳び
- ウ 幅跳び
- エ ハードル走

問 6 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 3 学年及び第 4 学年の「F 表現運動」領域の「イ リズムダンス」の内容として例示されているものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ること。
- イ 2・3人で手をつないだりくぐり抜けたりして自由にかかわり合って踊ったり、友達と調子を合わせたり対応したりして踊ること。
- ウ 選んだリズムや音楽の特徴をとらえ、変化のある動きを連続して、個と群や場の使い方を強調した構成でまとまりを付けて踊ること。
- エ 友達と手をつないだり、まねをしたりして踊ること。

問 7 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 3 学年及び第 4 学年の「D 浮く・泳ぐ運動」領域の「イ 泳ぐ運動」の例示として示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア ばた足、かえる足
- イ 壁につかまっの伏し浮き、補助具を使っの浮く遊び
- ウ 呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ
- エ 補助具を使っクロールや平泳ぎのストローク

問 8 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 5 学年及び第 6 学年の「E ボール運動」領域の「イ ネット型」の内容として例示されていないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 相手が受けやすいボールを返すこと。
- イ 自陣のコート(中央付近)から相手コートに向けサービスを打ち入れること。
- ウ ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動すること。
- エ 相手コートにボールを打ち返すこと。

問 9 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 3 学年及び第 4 学年の「G 保健」領域の「(1) 毎日の生活と健康」の内容として示されているものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 生活習慣病など生活行動が主な要因となっ起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
- イ 毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。
- ウ 体をよりよく発育・発達させるには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であること。
- エ 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

問10 次の文は、『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において、第5学年及び第6学年の「G 保健」領域の「(2) けがの防止」について述べたものである。空欄〔 A 〕から〔 C 〕に当てはまる正しい語句の組合せを、次の解答群アからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

毎年多くの交通事故や〔 A 〕が発生し、けがをする人や死亡する人が少なくないこと、また、学校生活での事故や、犯罪被害が発生していることを理解できるようにするとともに、これらの事故や犯罪、それらが原因となるけがなどは、人の〔 B 〕や〔 C 〕がかかわって発生していることを理解できるようにする。

〔解答群〕

- |   | 〔 A 〕 | 〔 B 〕 | 〔 C 〕 |
|---|-------|-------|-------|
| ア | 水の事故  | 生活    | 考え方   |
| イ | 自然災害  | 性格    | 生活    |
| ウ | 水の事故  | 行動    | 環境    |
| エ | 自然災害  | 能力    | 態度    |

問11 次の文は、『小学校学習指導要領』(平成20年文部科学省告示第27号)の「第1章 総則」の「第1の3」に示された「学校における体育・健康に関する指導」について触れたものであるが、適切でないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 学校における食育の推進・体力の向上に関する指導・安全に関する指導は、体育科の時間のもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。
- イ 学校における体育・健康に関する指導は、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて行われなければならない。
- ウ 安全に関する指導は、小学校では、交通安全に関する知識の学習を主に行うようにする。
- エ 学校における体育・健康に関する指導は、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るために配慮されなければならない。

問12 「体づくり運動」の「巧みな動きを高めるための運動」として、適切でないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 高跳びの用具を用いてバーを跳び越えたりくぐり抜けたりする運動を交互に行う。
- イ はずんだボールをすばやく捕球する。
- ウ 手おし車リレーを行う。
- エ コーンを等間隔に並べたコースをリズムカルに走る。

問13 小学校で行う「鉄棒運動」の技の組合せ例として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 膝掛け上がり・前方支持回転・前回り下り
- イ 逆上がり・後方支持回転・支持とび越し下り
- ウ け上がり・前方支持回転・棒下振り出し下り
- エ 逆上がり・後方浮き支持回転・支持とび越し下り

問14 次の文は、小学校における助走距離が15～20 m程度の走り幅跳びの指導について述べたものである。最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア リズムカルな助走から、幅30～40 cm程度の踏み切りゾーンで踏み切り、かがみ跳びから片足で着地するよう指導する。
- イ リズムカルな助走から、幅50～70 cm程度の踏み切りゾーンで踏み切り、反り跳びから両足で着地するよう指導する。
- ウ リズムカルな助走から、幅30～40 cm程度の踏み切りゾーンで踏み切り、かがみ跳びから両足で着地するよう指導する。
- エ リズムカルな助走から、幅50～70 cm程度の踏み切りゾーンで踏み切り、反り跳びから片足で着地するよう指導する。

問15 次の文は、表現運動の指導について述べたものである。適切でないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 第3学年及び第4学年のリズムダンスの指導では、軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って流れるように踊ったり、一人で踊ることができるようにする。

イ 第3学年及び第4学年の表現の指導では、児童の関心や能力にふさわしい題材を取り上げ、多様な表現に取り組めるようにする。

ウ 第5学年及び第6学年の表現の指導では、グループで「はじめ—なか—おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにして、表現することができるようにする。

エ 第5学年及び第6学年のフォークダンスの指導では、踊りに必要な小道具や衣装を着けたり、踊りに伴う掛け声などを付けたりして踊りの雰囲気を高めるようにする。

問16 次の文は、小学校における25～50m程度を目安にしたクロールの指導について述べたものである。最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 手を左右交互に前に伸ばして水に入れて水をかき、肩のローリングを用いて顔を横に上げて呼吸を行いながら、リズムカルなばた足をするよう指導する。

イ 手を左右交互に前に伸ばして水に入れて水をかき、肩のローリングを用いて顔を前に上げて呼吸を行いながら、力強いばた足をするよう指導する。

ウ 手を左右交互に横に伸ばして水に入れて水をかき、肩のローリングを用いて顔を横に上げて呼吸を行いながら、リズムカルなばた足をするよう指導する。

エ 手を左右同時に前に伸ばして水に入れて水をかき、肩のローリングを用いて顔を横に上げて呼吸を行いながら、力強いばた足をするよう指導する。

問17 次の文は、ボール運動系の内容について述べたものである。適切でないものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 第3学年及び第4学年におけるベースボール型ゲームは、全力で走塁し、得点がとれるようなゲームをする。
- イ 第3学年及び第4学年におけるネット型ゲームは、ごく軽量のボールを片手や両手ではじいて自陣の味方にパスをしたり相手コートに返したりして、ラリーの続くゲームをする。
- ウ 第5学年及び第6学年におけるゴール型は、守備側プレーヤー数が攻撃側プレーヤー数を上回る状態をつくり出すことにより、守備しやすくなるようなゲームをする。
- エ 第5学年及び第6学年におけるベースボール型は、インニング終了の仕方を工夫したりして攻守交代が繰り返し行えるようなゲームをする。

問18 ボール運動の領域における技能は、「ボール操作」及び「ボールを持たないときの動き」で構成されている。これらの技能の内容として、最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 打球・捕球・送球は、「ボールを持たないときの動き」である。
- イ シュート・パス・キープは、ネット型の「ボール操作」である。
- ウ 「ボールを持たないときの動き」は、ボール操作に至るための動きに関する技能である。
- エ 「ボール操作」は、空間・ボールの落下点・目標(区域や塁など)に走り込む動きである。

問19 虫歯や歯ぐきの病気(歯周病)に関する記述のうち、正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 虫歯は、ミュータンス菌が作る酸により歯を支えている骨が溶かされてできる。
- イ 虫歯は、ミュータンス菌が食べ物の中の脂質を酸に変えて、その酸によって歯が溶かされてできる。
- ウ 歯ぐきの病気(歯周病)は、ミュータンス菌がつくる酸により歯が溶かされて起こる。
- エ 歯ぐきの病気(歯周病)は、ひどくなると歯を支えている骨が溶かされて、さらにひどくなると歯が抜けてしまうこともある。

問20 薬物(シンナーや覚せい剤など)に関する記述のうち、誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア シンナー中毒者の脳は縮んでしまい、一度縮むと元には戻らない。

イ シンナーや覚せい剤などの薬物は、一回の乱用でもやめられなくなるという性質(依存性)をもっている。

ウ シンナーや覚せい剤などの薬物を乱用すると、疲れがとれたり、痩せられたりする。

エ シンナーや覚せい剤などの薬物は、一回の乱用でも死に至ることがある。